

兵庫県産クモ類標本の収集・整理・活用

兵庫県産のクモ類標本の整理

兵庫県ではこれまで438種類のクモの記録が報告されています。但馬地域においては比較的詳細な記録が報告されているものの、県内全域におけるクモ相は十分に整理されていないのが現状です。人と自然の博物館では、1989年～1993年にかけて兵庫県内の主要河川の流域で行われた生物調査の際に採集されたクモ類の液浸標本を収蔵していますが、専門研究員の不在などの理由から十分に整理されていない状態で保管されていました。これらの未整理標本の中には、兵庫県内での分布がまだ報告されていない種も含まれています。兵庫県内におけるクモ相の解明に向けて、既存標本の整理登録作業を行うとともに、調査が不十分な地域における標本の収集を進めています。



クモ類液浸標本

兵庫県におけるカコウコモリグモの生息を初めて確認

カコウコモリグモは1998年に新種記載されたコモリグモ科のクモで、これまで8府県での分布が知られています。河口の塩性湿地という特殊な環境に生息しており、岡山県と大阪府では準絶滅危惧種に指定されています。

2015年8月に相生市で行った調査から、河口のヨシ原において本種のメスが採集され、兵庫県内での分布が初めて確認されました。今後も調査を進めることで、新たな生息地の発見や生態に関する知見が得られることが期待されます。



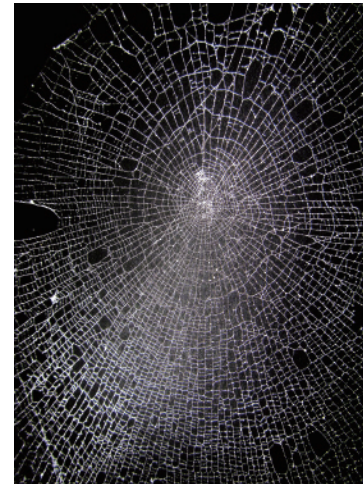
カコウコモリグモ♀ 兵庫県相生市産

展示やセミナーにおける標本の活用

研究用資料として収蔵される液浸標本とは別に、プラスチック封入標本および網標本をハンズオン展示(ミュージアムボックス)として活用しています。また、ゲル化剤を用いた液浸標本の展示技術を試験的に導入し、平成27年度収蔵資料展「学んで魅せる標本展」での展示を行いました。



ゲル化剤を用いた液浸標本 標本の位置が瓶中で固定されているのが特徴です。



ジョロウグモの網標本



プラスチック封入標本



兵庫県産クモ類標本の収集・整理・活用

代表者：高木俊

協力者：三橋弘宗

財源：研究部予算